

選択科目「林産」での受験による

国家資格「技術士(森林部門)」の取得を 推奨しています

日本木材学会 技術士小委員会

技術士とは

「技術士」は国家資格(文部科学省管轄)です。技術士は次の資質と能力が備わっていることを国(国家試験)によって認定された高級技術者です。

- ・豊富な実務経験
- ・技術的専門知識
- ・高度の応用能力
- ・高い技術者倫理

技術士になるには

第二次試験(筆記試験と口頭試験)に合格し、技術士として登録する必要があります(図1)。通常は、第一次試験を受験・合格し、実務経験が7年以上あれば、翌年には第二次試験を受験できます。

技術士制度と試験の詳細は、日本技術士会のホームページ(<http://www.engineer.or.jp/>)でご確認ください(過去問も閲覧できます)。

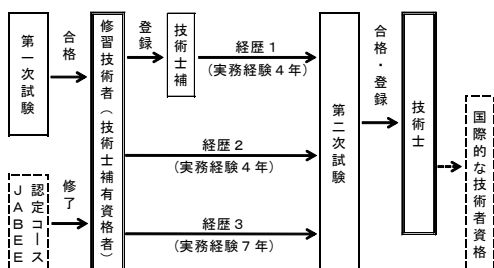


図1 技術士試験の流れ

注)経歴3の実務経験には第一次試験受験前の経歴も算入可。大学院も2年まで経歴に算入可。

技術士第一次試験について

■ 第一次試験の概要

- ・第一次試験合格者は「技術士補」の登録が可能。
- ・年齢、学歴、業務経歴等による受験制限なし。
- ・表1の1～20の技術部門から得意な部門を選び、受験申込み。
(第二次試験で「林産」を選択する場合は、「森林部門」で第一次試験を受験するのが一般的。)
- ・筆記試験(択一式)のみ(表2)。
- ・受験地は各地。
(北海道、宮城県、東京都、神奈川県、新潟県、石川県、愛知県、大阪府、広島県、香川県、福岡県及び沖縄県)。

表1 技術部門と選択科目

技術部門	選択科目数
1 機械部門	10
2 船舶・海洋部門	3
3 航空・宇宙部門	3
4 電気電子部門	5
5 化学部門	5
6 繊維部門	4
7 金属部門	5
8 資源工学部門	3
9 建設部門	11
10 上下水道部門	3
11 衛生工学部門	5
12 農業部門	7
13 森林部門	4
14 水産部門	4
15 経営工学部門	5
16 情報工学部門	4
17 応用理学部門	3
18 生物工学部門	3
19 環境部門	4
20 原子力・放射線部門	5

表2 技術士第一次試験の概要

試験科目	問題の種類	試験方法 (すべて択一式)	試験時間	配点	合格決定基準
基礎科目	科学技術全般にわたる基礎知識を問う問題	5分野から各6問 計30問出題	1時間	15点	50%以上の得点
		5分野から各3問 計15問解答			
適性科目	技術士法第四章の規定の遵守に関する適性を問う問題	15問出題 全問解答	1時間	15点	50%以上の得点
専門科目	当該技術部門に係る基礎知識及び専門知識を問う問題	森林部門共通で 35問出題 25問解答	2時間	50点	50%以上の得点

■ 第一次試験の対策

多くの方が、基礎科目と適性科目は市販の受験対策書で、専門科目は主に過去問対策で合格しています。過去問は日本技術士会のホームページから入手できます。SUKIYAKI塾のホームページ(<http://www.pejp.net/pe/>)も大変参考になります。

木材学会の取組み

木材学会では、2013年より地域木材産業研究会にて、技術士試験の情報提供と選択科目「林産」での受験奨励が行われました。結果、多くの会員が受験し、合格しています(図2)。この活動を受けて2016年より、産学官連携推進委員会の下に「技術士小委員会」(信田聡座長、理事、東京大学大学院教授)が設置され、技術士(林産選択)の受験者を維持・増強すること、林産分野を専門とする技術士の活用を図ることを方針に掲げ、活動しています。2016年5月11日には鮫島会長、信田座長と委員2名が文部科学省を訪問し、本学会として選択科目「林産」の維持・存続に関する要望書を提出しました。

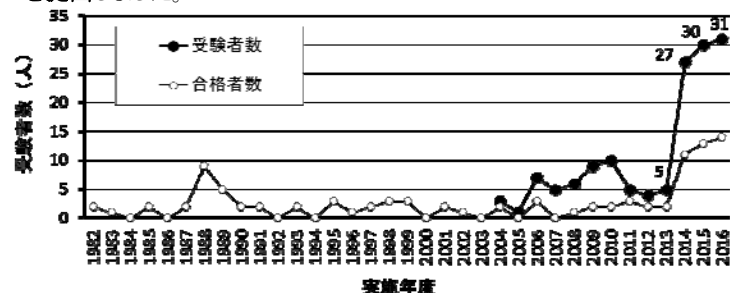


図2 技術士第二次試験(林産選択)の受験者の推移

第二次試験・森林部門選択科目「林産」について

第二次試験では、20の技術部門の配下にある選択科目の一つ選びます。現在、森林部門の選択科目は、「林業、森林土木、林産、森林環境」の4つです。これらの科目は5年ごとに見直しを行うとされており、相対的に受験申込者数の比率の少ない科目が統廃合の対象とされます。具体的には20部門全申込者数(28年度は31,635人)の0.1%に満たない科目は統合または内容変更、0.05%に満たない科目は廃止の対象となります。

近年の「林産」での受験者の急増によって今回は廃止を免れることができました。しかし、**選択科目「林産」は「林業・林産」として統合される見込み**となりました。この統合により、「森林計画及び森林管理、造林、林業生産その他の森林・林業に関する項目」(林業)と「木質材料・木質構造、林産化学、木質バイオマス、特用林産その他林産に関する事項」(林産)の双方が同じ科目の中で出題されることになり、現在の制度よりも幅広い知識が試験で求められることとなります。

受験を検討されている方は、過去問題が活かせる早期に受験されることをお勧めします。(この一、二年で改変される可能性が高いです。)

技術士取得の推奨について

日本木材学会は、創立以来、木材に関する基礎および応用研究の推進と研究成果の社会への普及に取り組んできました。今後、更なる木材利用を進める上で、木材を専門とする技術士の活用を図っていくことも重要と考えます。技術士は、最上級の技術者資格の一つです。それ故に、第二次試験の難易度は第一次試験と比べてかなり高く設定されています。現在、「林産」選択に特化した市販の対策本はほとんどありませんが、木材学会の関係者などの有志が、選択科目「林産」の受験サポートを行っています。

表3 平成29年度技術士試験の日程

平成29年度 技術士試験	受験申込受付期間	試験日
第二次試験	4月7日～4月28日	筆記試験(各地) 7月17日 口頭試験(東京) 11～1月
第一次試験	6月22日～7月3日	10月8日(日)

※詳細は、日本技術士会のホームページをご参照ください。

選択科目「林産」で技術士を受験される方のために、試験概要、受験体験などの資料や情報を提供しております。

技術士に興味ある方は是非ご連絡ください!

件名 技術士情報希望
宛先 技術士小委員会 委員 柴田直明
nsbt-mt2@snow.plala.or.jp